

# 2009 年 1 月号 目次

## 【トピックス】

アレルギー物質を含む食品の検査結果 . . . . .	1
医動物検査 . . . . .	3

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 12月 . . . . .	5
感染症発生動向調査における病原体検査 12月 . . . . .	9

## 【検査結果】

由来別病原菌検出状況 12月 . . . . .	10
--------------------------	----

## 【情報提供】

衛生研究所 WEB ページ情報 (20 年度 12 月分) . . . . .	11
---	----

# アレルギー物質を含む食品の検査結果

平成13年4月、食物アレルギーを持つ人の健康危害を未然に防止する観点から、アレルギー物質(特定原材料)を含む食品に表示が義務付けられました。現在、特定原材料として卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かにの7品目が指定されています。

今年度は6月及び10月に、食物アレルギーがある人のために製造された食品や、特定原材料の表示がない食品を対象として、健康福祉局食品専門監視班が市内の小売店で収去及び通信販売で買上し、当所にて乳、落花生、小麦の検査を行いました。その検査結果を報告します。

## 1 乳の検査

菓子類(焼菓子、ドーナッツ等)やレトルト食品など16検体について、乳の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、いずれも陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 乳の検査結果 (スクリーニング試験)

食品	検体数	陽性数
菓子類(焼菓子、ドーナッツ等)	4	0
レトルト食品	3	0
パン	2	0
麺類	2	0
そうざい	2	0
その他	3	0
合計	16	0

## 2 落花生の検査

中華菓子8検体について、落花生の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、いずれも陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 落花生の検査結果 (スクリーニング試験)

食品	検体数	陽性数
中華菓子	8	0

### 3 小麦の検査

菓子類(焼菓子、せんべい等)やレトルト食品など40検体について、小麦の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、焼菓子(オーツクッキー)1検体については陽性(10ppm以上)でしたが、それ以外はすべて陰性(10ppm未満)でした(表3)。

スクリーニング試験で陽性となったオーツクッキー1検体についてPCR法による確認試験を行ったところ、結果は陰性でした。小麦のスクリーニング試験に用いたELISAキットは、小麦以外の穀類(あわ、ひえ、オーツ麦等)で交差性があり、オーツ麦では10ppm以上の数値を示すことが知られています。このオーツクッキーについて、食品専門監視班が製造所を管轄する自治体に依頼して、小麦使用の有無等を確認しました。その結果、小麦の使用は認められませんでした。以上のことから、オーツクッキーについては偽陽性の可能性が高いと考えられました。

表3 小麦の検査結果

食品	スクリーニング試験		確認試験	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
菓子類(焼菓子、せんべい等)	18	1	1	0
レトルト食品	11	0		
パン	2	0		
麺類	2	0		
そうざい	2	0		
その他	5	0		
合計	40	1	1	0

【 食品添加物担当 】

# 医動物検査

医動物担当における平成20年10～12月の検査件数を表に示しました。

【行政検査：福祉保健センター、市場食品衛生検査所など行政からの依頼】

食品中異物検査が6件(あえものに混入したチョウ目の幼虫、肉まんに混入したミズアブ科、炒め物に混入したヤガ科の幼虫、砂糖に混入したノシメダラメイガの幼虫、即席カップめんに入混したトンボ科の翅、弁当に混入したクモ目)でした。

種類同定検査が8件(サクラアリの働き蟻 2件、サクラアリの有翅虫:雌、ヤマアリ亜科の有翅虫:雄 3件、チョウバエ科、コウモリの糞)でした。

ウエストナイル熱媒介蚊調査のために、市内公園や港湾地区などで週に1回ライトトラップを用いて採集された蚊を分類同定しました。10月に40回(1回10定点)調査を行いました。期間中に採集された蚊は、5属7種、366個体(雄を含む)でした。また、6月から10月に行われた本調査で採集された蚊の総数は、9属11種、3,843個体(雄を含む)でした。

【依頼検査：市民、事業者からの有料依頼】

ゴキブリに対する殺虫剤効力試験(実地効力試験)を行いました。

【その他：感染症媒介昆虫等の市内における生息状況調査や市民からの問い合わせ等】

中区、磯子区、南区(2定点)でライトトラップを用い、週に1回飛翔昆虫調査を行いました。10～12月中に53定点の調査を行いました。

また、中区の5飲食店、47定点で粘着式トラップによるチャパネゴキブリの生息状況調査を実施しました。10～12月中にのべ609か所の調査を行いました。

感染症媒介昆虫調査の一環として、保土ヶ谷区(1回:100か所)において雨水枡における蚊幼虫調査を行いました。

検査試験項目	平成20年			平成20年	
	10月	11月	12月	4～12月	
行政検査	種類同定検査	7	1	0	140 件
	食品中異物検査	0	2	4	14 件
	ウエストナイル熱蚊検査				
	採集地点数	40			200 定点
	個体数	366			3843 個体
依頼検査	種類同定検査				8 件
	食品中異物検査				0 件
	発生状況調査(ダニ類)				
	調査回数				0 件
	個体数				0 個体
	殺虫剤効力試験	10			14 件
その他	ゴキブリ調査	235	184	190	1828 カ所
	飛翔昆虫調査	20	16	17	155 定点
	その他の調査等	100			866 件
	問い合わせへの回答	14	10	19	141 回

## 検査試験項目等 解説

### 種類同定検査

福祉保健センター、市民、事業者などから依頼のあった昆虫・ダニ類の種を調べます。種が明らかになることにより、生態等が判明し、その発生時期、発生場所、害の有無などに基づいて駆除の必要性、駆除方法、予防法などが明らかになります。

### 食品中異物検査

福祉保健センター、市民、事業者などから依頼のあった食品に混入した昆虫の種を調べます。種が明らかになることにより、生態等が判明し、混入経路を推定する一助となります。

### ウエストナイル熱媒介蚊調査

健康福祉局の「ウエストナイル熱対策事業」におけるウエストナイルウイルスの調査を行っています。種ごとのウイルス保有状況を調べるため、市内公園や港湾地区などで採集された蚊を分類同定します。なお、採集した蚊についてはウイルス担当において、日本脳炎ウイルスの検査も合わせて行っています。

### ダニ類等発生状況調査

市民からのかゆみや虫刺されの相談に基づいて、必要に応じて、住宅内でのダニ検査を行います。ダニ発生の有無を調べ、発生している場合には人を刺すダニであるかなどの検査を行います。

### 殺虫剤効力試験

新しく開発された防疫用殺虫剤の効力試験を、室内(基礎)および野外(実地)で行います。

### ゴキブリ調査

実際に営業している飲食店におけるゴキブリの生態を把握するため、また殺虫剤の実地効力試験の予備調査として、ゴキブリ生息状況調査を行っています。

### 飛翔昆虫調査

ライトトラップを用い、時期ごとに大量発生している昆虫類等の発生状況や感染症媒介昆虫である蚊類成虫を中心とした飛翔昆虫の発生状況を調査しています。

### その他の調査等

20年度は、雨水枡内での蚊の生息状況観察と幼虫に対する薬剤効果試験を行っています。

### 問い合わせ

市民の方などから相談のあった、昆虫・ダニ一般、昆虫媒介性疾病、殺虫剤などに関する不安、疑問に回答、助言、指導をします。



らせん状でモコモコしています！

写真:コウモリの糞

【 医動物担当 】

# 感染症発生動向調査委員会報告 12月

## 今月のトピックス

インフルエンザは例年より早くすべての区が流行期に入りました。

感染性胃腸炎が引き続き増加し、集団発生も見られています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は冬季の流行が見られています。

### 【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点:88か所、内科定点:57か所、眼科定点:18か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計192か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

### 平成20年 週 - 月日対照表

第47週	11月17~23日
第48週	11月24~30日
第49週	12月1~7日
第50週	12月8~14日
第51週	12月15~21日

平成20年11月17日から平成20年12月21日まで(平成20年第47週から第51週まで。ただし、性感染症については平成20年11月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

### 全数把握の対象

#### < レジオネラ症 >

12月は25日現在で2例の報告がありました。1月からの報告数は32例(うち31例は肺炎型)となり、昨年1年間の報告数28例を上回り、これまでで最も多い報告数となっています。

全国でも、12月25日までの累計は864例と、すでに昨年の報告数665例を大きく上回っています。(表参照)

#### レジオネラ症の報告数の年別推移(2000年~2008年)

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
全国	154	86	167	146	161	281	514	665	864
神奈川県	2	2	4	6	6	19	26	43	58
横浜市(再掲)	0	0	3	2	1	8	7	28	32

#### < 麻しん >

1月から感染症法の5類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

12月は25日現在で3例の報告がありました。横浜市における1月からの累計報告数は1482例で、全国の報告数10990例の13.5%です。年齢別では、10代(50.5%)が多く、予防接種前の0歳(5.9%)にも多く発症しています。また、全体の48.4%が予防接種未接種でした。

麻疹月別報告数



2012年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1歳～高校3年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。

横浜市の詳細については、「横浜市における麻疹患者届出状況(2008年)」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

## 定点把握の対象

### <インフルエンザ>

第40週に今シーズン初発のA型インフルエンザの報告があり、第41週にはB型インフルエンザの初発の報告がありました。過去6年間で最も早かった昨シーズンに次いで早く、第49週に流行の目やすとなる「1.0」を超え、第51週の定点あたり報告数は4.70と、増加しています。

区別では、緑区(14.00)、戸塚区(8.40)、港北区(6.64)、瀬谷区(6.17)、泉区(5.67)、都筑区(5.29)の順で多く報告されており、すべての区で流行期に入っています。早期のワクチン接種が望まれます。神奈川県(横浜、川崎を除く)は3.56、川崎市は2.48、全国は4.68でした。

迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第51週にA型407件、B型110件の報告がありました。また、第47週以降の病原体定点と集団かぜの検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は併せて29件あり、その内訳はAH1亜型(ソ連型)8件(28%)、AH3亜型(香港型)15件(52%)、B型6件(21%)となっています。

横浜市インフルエンザ流行情報もご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza\\_rinji\\_index2008.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza_rinji_index2008.html)

### <RSウイルス感染症>

例年冬季に流行が見られますが、今年は立ち上がり早く、第37週から増加の兆しが見られ、第47週に定点あたり0.97とピークとなり、その後減少し、第51週は0.18でした。行政区別では磯子区(1.75)が多く、港北区、青葉区、南区、港南区からも報告があります。神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.64、川崎市は0.61、全国は0.98と、横浜市より高い値です。

#### < A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 >

例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下し、また冬季の流行に向かって増加します。今シーズンも、第34週に最低値となった後、細かな増減はあるものの増加傾向が続き、第49週には定点あたり2.52となりました。第51週は少し減少して2.09でした。行政区別では港北区(8.00)が高く、次いで磯子区(3.75)、青葉区(2.67)、栄区(2.67)となっています。過去6年間で最も高い値で推移しているため、今後の動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.56、川崎市は2.94、全国は2.43でした。

#### < 感染性胃腸炎 >

第43週から増加の兆しが見られ、第51週の定点あたり報告数は18.51と、今シーズンで最も高い値となりました。流行の大きかった2006年ほどではありませんが、昨年と同じくらいの値を推移しており、動向に注意が必要です。行政区別では瀬谷区(34.33)、緑区(33.33)、神奈川区(23.00)、泉区(22.25)、都筑区(22.00)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は21.14、川崎市は26.82と、どちらも横浜市より高い値です。全国は15.85でした。

集団発生が小学校を中心に報告されており、ノロウイルスが主に検出されています。手洗い、うがいの励行など、予防の啓発に努めていくことも重要と思われます。

#### < 水痘 >

例年、年末にかけて発生が増加します。今シーズンも増加傾向が続いており、第51週の定点あたり報告数は2.41と、今シーズンで最も高い値となりました。今後の動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.82、川崎市は2.88、全国は2.28でした。

#### < 百日咳 >

第45週には20例の報告がありましたが、その後は減少し、第51週には報告が0になりました。

#### < 性感染症 >

性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

11月は、10月に比べて全体としては横ばいです。19歳以下の若年層については、男性は性器クラミジア感染症で2例、淋菌感染症で1例、女性は性器クラミジア感染症で1例、性器ヘルペスウイルス感染症で3例と、10月に比べて減ってはいますが、女性の性器ヘルペスウイルス感染症に10～14歳の感染者があり低年齢化が懸念されます。

【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点：8か所、インフルエンザ(内科)定点：5か所、眼科定点：1か所、基幹(病院)定点：3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

衛生研究所から

<ウイルス検査>

2008年12月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点66件(鼻咽頭ぬぐい液50件、糞便11件、直腸ぬぐい液3件、嘔吐物2件)、内科定点8件(鼻咽頭ぬぐい液)、基幹定点3件(鼻咽頭ぬぐい液2件、血清1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎36人、胃腸炎17人、発熱のみ7人、発疹3人、口内炎3人、内科定点は関節痛5人、気道炎2人、発熱のみ1人、基幹定点は喘息性気管支炎2人、川崎病・アデノウイルス感染症1人でした。

1月9日現在、小児科定点の気道炎患者6人からインフルエンザウイルスAH1型(以下AH1型)、4人からインフルエンザウイルスAH3型(以下AH3型)、4人からインフルエンザウイルスB型(以下B型 このうち2人はAH3型も分離)、発熱のみの患者3人からAH1型、2人からB型、発疹患者1人からエンテロウイルス71型、内科定点の関節炎患者2人からAH3型、1人からAH1型、気道炎患者1人からB型が分離されています。

これ以外に、PCR検査では、小児科定点の気道炎患者4人と発熱のみの患者1人からAH3型遺伝子が、気道炎患者12人からRSウイルスの遺伝子が検出されました(このうち2人はAH1型、1人はB型分離、1人はAH3型遺伝子検出)。また、胃腸炎患者11人からノロウイルスG2型遺伝子、発疹患者1人からヘルペスウイルス6型遺伝子、口内炎患者3人からそれぞれエンテロウイルス71型、コクサッキーウイルスA 10型、RSウイルスの遺伝子が検出されました。内科定点は関節炎患者2人と気道炎患者1人からAH3型遺伝子が検出され、このうち気道炎患者1人からはRSウイルスの遺伝子も検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

小児科 66件(鼻咽頭ぬぐい液50件、糞便11件、直腸ぬぐい液3件、嘔吐物2件)

		分離				PCR							
		AH1	AH3	B	En71	AH1	AH3	B	RS	Noro	En71	CoxA10	HHV6
気道炎	36	6	4	4*		4		12**					
胃腸炎	17								11				
発熱のみ	7	3		2		1							
発疹	3				1								1
口内炎	3							1			1	1	
		9	4	6	1	5		13	11	1	1	1	1

\* 2検体はAH3型とB型の両方を分離

\*\* 2 体はAH1型、1 体は 分離、1 体は H3 遺伝子も検出

内科 8件(鼻咽頭ぬぐい液)

		分離				PCR							
		AH1	AH3	B	En71	AH1	AH3	B	RS	Noro	En71	CoxA10	HHV6
関節炎	5	1	2			2		1***					
気道炎	2			1		1							
発熱のみ	1												
		1	2	1		3		1					

\*\*\* 1 体はAH3型遺伝子も 出

<細菌検査>

12月の感染性胃腸炎関係の受付は4検体でカンピロバクターが1件より検出されました菌株受付は8件で病原性大腸菌が2件毒素原性大腸菌が1件検出されました。溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は13件でA群溶血性レンサ球菌が11件検出されました。百日咳の検体が15件で検出されませんでした。また、肺炎球菌およびインフルエンザ菌株の受付各1件ありました。

# 感染症発生動向調査における病原体検査12月

## 感染性胃腸炎

2008年12月

検査年月	12月		2008年1～12月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数	4	8	4	86
<b>菌種名</b>				
サルモネラ				
腸管病原性大腸菌		2		5
毒素原性大腸菌		1		3
組織侵入性大腸菌				
腸管出血性大腸菌				3
腸管凝集性大腸菌				
黄色ブドウ球菌				
カンピロバクター	1		1	0
不検出	3	5	3	75

## 呼吸器感染症等

2008年12月

検査年月	12月		2008年1～12月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数	28	2	78	3
<b>菌種名</b>				
A群溶血性レンサ球菌	T1	3	4	
	T3	1	10	
	T4	4	13	
	T12		8	
	T13		1	
	T25		5	
	T28	2	5	
	T B3264	1	2	
	T 型別不能			
B群溶血性レンサ球菌				
G群溶血性レンサ球菌			1	
黄色ブドウ球菌				
髄膜炎菌				1
インフルエンザ菌		1		1
肺炎球菌		1		1
不検出	17		29	0

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

[ 細菌担当 ]

# 由来別病原菌検出状況 12月

2008年12月

検体の種類	分離菌株数					
	ヒト		環境		食品	
	糞便、尿、咽頭ぬぐい液、 喀痰等 菌株による依頼を含む		河川水、河川底泥等		食品、食品容器等のふきとり、 飲料水等	
	12月	2008年1-12月	12月	2008年1-12月	12月	2008年1-12月
コレラ O - 1		1				
O - 1以外		1		4		
赤痢菌 A						
B		3				
C		1				
D		9				
その他						
チフス菌		4				
パラチフスA菌		5				
その他のサルモネラ						
O4群		1				
O7群	2	8				
O8群						
O9群		2				
O3, 10群						
その他						
腸管病原性大腸菌	2	5				
毒素原性大腸菌	1	12				
組織侵入性大腸菌						
腸管出血性大腸菌		53				1
腸管凝集性大腸菌		1				
腸炎ビブリオ		2				
黄色ブドウ球菌		60				15
カンピロバクター	7	65			4	14
ウェルシュ菌		11				1
A群溶血性レンサ球菌	11	47				
B群溶血性レンサ球菌						
レジオネラ		4				
セレウス菌		4				7
その他	2 <sup>*1</sup>	2				
取り扱い件数	148				65	

\*1 肺炎球菌、インフルエンザ菌が各1株

【細菌担当】

# 衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 20年度11月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 20年度12月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、1998年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

2008年4月、市民にわかりやすくかつ迅速な情報提供を目指して、リニューアルを行いました。

今回は、2008年11月のアクセス件数、アクセス順位及び2008年12月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については行政運営調整局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数 (2008年11月)

2008年11月の総アクセス数は、168,566件でした。主な内訳は、感染症45.8%、食品衛生28.7%、保健情報12.6%、検査情報月報2.1%、生活環境衛生1.5%、薬事1.7%でした。

### (2) アクセス順位 (2008年11月)

11月のアクセス順位(表1)は、第1位が「亜硝酸ナトリウム」、2位が「マイコプラズマ肺炎について」、3位が「妊娠と喫煙について」でした。

1位の「亜硝酸ナトリウム」は、ソーセージから、食品衛生法の基準を超える亜硝酸ナトリウム(発色剤)が検出された事による影響と考えられます。

3位の「妊娠と喫煙について」は、妊娠中の喫煙が胎児の心肺機能を低下させるという報道発表があったり、横浜市が受動喫煙防止にフォーカスをあて「ハッピー！ ウエルネス ウェーブ 2008 - 2009」についての記者発表を行った影響と考えられます。

インフルエンザの流行シーズンを向かえ、第8位に「2008(平成20)年度のインフルエンザワクチンについて」が入っています。

表1 2008年11月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	食品添加物データシート:亜硝酸ナトリウム	18,377
2	マイコプラズマ肺炎について	10,444
3	妊娠と喫煙について	8,946
4	百日咳について	4,294
5	ライノウイルスについて	3,662
6	インフルエンザワクチンについて	2,679
7	ちょっと専門的なデータシート	2,228
8	2008(平成20)年度のインフルエンザワクチンについて	2,043
9	電子パンフレット(MRSA)	1,967
10	大麻(マリファナ)について	1,771

データ提供:行政運営調整局IT活用推進課

(3) 電子メールによる問い合わせ (2008年12月)

2008年12月にホームページのお問合わせフォームを通していただいた電子メールによる問い合わせの合計は、6件でした(表2)。

表2 2008年12月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
酵素液体について	1	衛生研究所
新型インフルエンザについて	1	衛生研究所
O157について	1	衛生研究所
リステリア菌について	1	衛生研究所
ワクチンについて	1	衛生研究所
インフルエンザについて	1	衛生研究所

2 追加・更新記事 (2008年12月)

2008年12月に追加・更新した主な記事は、7件でした(表3)。

表3 2008年12月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
12月3日	インフルエンザワクチンについて	更新
12月8日	感染症に気をつけよう (12月号)	追加
12月15日	コレラについて	更新
12月16日	英字略語集(ABC順)	更新
12月22日	高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況	更新
12月25日	横浜市における麻しん患者届出状況 (2008年)	更新
12月25日	横浜市インフルエンザ等流行情報 2号	追加

【 感染症・疫学情報課 】